

二〇三三年二月二四日

梅林を巡りある人みな笑顔  
ふらここや手に鉄錆の香を残す  
観潮船大きく傾ぎどよめきぬ  
春山のハングラライダー風つかむ  
馴れ初めを聞かされてゐる春炬燵

せいじ  
かえる  
みきお  
智恵子  
ひのと

二〇三三年二月二三日

春寒の膝にて畳む帯固し  
宝物見つけたやうに竜の玉  
下萌ゆと見たる池塘の四目垣

ひのと  
うつぎ  
もとこ

二〇三三年二月二二日

こうのとりの嘴突く田んぼ水温む  
梅ふふむ嬰の拳のひらくごと  
満点の答案飾る雛の前  
下萌に紙飛行機の忘れ物  
土堤駆くる部活女子らに風光る  
磯の香もジッパに込め塩若布

こすもす  
かえる  
ひのと  
智恵子  
みきえ  
千鶴

二〇三三年二月二一日

靴音の近づいてくる犬ふぐり  
宮焚火ほむらも神と手を合す  
梅の茶屋BGMはビートルズ  
倒木に一縷の命薬ゆる  
夫待つや隣席に置く春ショール  
俳号で届く荷物や春うらら

うつぎ  
うつぎ  
もとこ  
むべ  
ひのと  
こすもす

二〇三三年二月二〇日

しづしづと閻魔天供へ紫衣の列  
春塵や古りし写真の一家族  
水温む隠沼に鯉跳ねる音  
退院を祝ぐやに庭の梅満開

うつぎ  
ひのと  
素秀  
満天

二〇三三年二月一九日

マリンバとピアノ協奏春奏づ  
句会果てちよつとお茶でも日脚伸ぶ  
長閑なりいびきの犬に添寝して  
山笑ふつり橋わざと揺らす人

千鶴  
もとこ  
かえる  
はく子

二〇三三年二月一八日

日の当たる床几をえらび梅見小屋  
寄せる波かわし刈とる若布かな  
しらす干し食めば広がる海の味  
谷合に高鳴る瀬音野水仙  
踏ん張つてなぞへの蕨取りにけり  
水平線撓む岬の椿かな

董雨  
みきお  
かえる  
千鶴  
みきお  
和子

毎日句会みのもる選・二〇三三年二月二六日